

10.12 土 14:00

天才舞踊家を父にもつサラブレッドにしてトレンドセッター

ベレン・マジャ &

華麗なる貴公子

マヌエル・リニャン

Belén Maya & Manuel Liñán

Trasmín トラスミン

10.13 日 14:00

新境地を切り開く真正フラメンコ

イスラエル・ガルバン

Israel Galván

La Edad de Oro 黄金時代

10.14 月祝 14:00

天才的な音感、驚異的な身体能力、
そして天性の踊り手としての感性

ロシオ・モリーナ舞踊団

Rocío Molina Company

Danzaora ダンサオーラ

新宿文化センター 大ホール

S ¥10,000 A ¥8,500

3演目セット券 (S席) ¥28,000

* 全席指定・税込

* 3演目セット券 は、チケットスペースにて電話予約のみ取扱い

ご予約・お問い合わせ

チケットスペース 03-3234-9999

[チケットスペースオンライン](#) (PCのみ)

チケット取り扱い

チケットぴあ

0570-02-9999 (Pコード429-103)

<http://pia.jp/t/flamenco/>

ローソンチケット

0570-08-4003 (Lコード33391)

0570-00-0407 (オペレーター対応10:00~20:00)

<http://l-tike.com/flamenco/>

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/flamenco/>

新宿文化センター 03-3350-1141 窓口販売のみ (9~19時 休館日を除く)

* 未就学児入場不可 * 営利目的の転売禁止

* 車イスでご来場予定のお客様は事前にチケットスペースへご連絡ください

フラメンコ・フェスティバル

flamencofestival inTokyo

flamenco flamenco



2013.10.12土~14月祝 14:00開演

新宿文化センター 大ホール

ご予約・お問い合わせ チケットスペース 03-3234-9999 [チケットスペースオンライン](#) (PCのみ)



日本スペイン交流400周年

主催・企画制作: PARCO

後援:



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía



Andalucía

共同主催: 公益財団法人 新宿未来創造財団

協力: パセオフラメンコ 制作協力: f-SQUARES



PARCO

フラメンコはロマたちの暗黒の叫びにも似たうなる力に満ち満ちている摩訶不思議なバイタリティーを持っている。アンダルシアの、その地中から呼び覚まされる魔=間を我々はDUENDE(ドゥエンデ)と呼ぶ。すばらしい演者と観客が、最高の瞬間を共有できた時初めて体験できるかなしぼりにも似た陶酔境の状態に近い。人間の根元に宿る呪縛的な奥深い感動が湧き出た瞬間といえる。

Belén —— 洗練の極みを顕現する舞姫。
Liñán —— F.G.Lorcaの魂を具現するグラナダの若武者。
Israel —— 独創と伝統を併せ持ち、常に未来を見据える巨傑。
Rocio —— 21世紀フラメンコを約束の聖域へと継ぐ舞人。
Eva —— 響しい存在。フラメンコ界きっての輝くエトワール。劇場通いが続きそうでうれしい。

小島章司

フラメンコ舞踊家/一般社団法人 日本フラメンコ協会理事

ベレン・マジャ/マヌエル・リニャン

Belen Maya/Manuel Liñán

Trasmín トラスミン

10.12 14:00開演

天才舞踊家を父に持つサラブレッドにしてトレンドセッター **ベレン・マジャ**

華麗なる貴公子、若手実力派 **マヌエル・リニャン**

ベレン・マジャは、誰もが一挙一動を見守る、フラメンコ舞踊界のトレンドセッターだ。

踊りのスタイル、選曲から衣裳にいたるまで、彼女のやることなすこと全てが、次の流行になる。

グラナダが生んだ巨匠のマリオ・マジャの娘として、1966年父の公演先のニューヨークで生まれたベレンは、父からフラメンコ舞踊の伝統と類まれな創造性を受け継いだ彼女は、90年代の半ば、それまで思いもよらなかった斬新な動きで、若手ニューウェーブの火付け役となる。そして21世紀に入ると、歌い手マイテ・マルティンとの共演を機に、伝統を蘇らせるネオ・クラシックを打ち出し、またもや時流を変えた。

自身の作品を提唱するほか、父の最期の監督作品となった「ムヘーレス」(08)ではロシオ・モリーナと共演し好評を得る。また、2012年にはイスラエル・ガルバンの新作「ロ・リアル」に客演し、90年代の自身のスタイルを更に進化させたアバンギャルドな踊りを提唱。今再び世

界に“新しい予感”を呼び起こしている。

期待される来日公演「トラスミン」では、ギターとカンテだけのシンプルな構成で伝統的なフラメンコに徹するが、もちろん独自のひねりは忘れない。そして彼女と共に魅せてくれるのが、若手実力派ナンバーワン、マヌエル・リニャンだ。1980年グラナダに生まれ、10代の頃よりカルメン・コルテス、マノレーテらの舞踊団で活躍。ベレンとは2004年から度々共演し、現在は自身の舞踊団を率いる傍ら、振付家としても活躍している。彼の踊りは、センスの良さもさることながら、驚異的な軸の強さから繰り出すサバテアードが見もの。その目も眩む華麗さにノックアウトされること間違い無しだ。

フラメンコへの愛と情熱が、世代の違う二人の魂を結びつけた。伝統と共に生き、そして未来を迫る。ベレンとマヌエルの新しい感性に、フラメンコの今を感じて欲しい。



Belén Maya



Manuel Liñán

イスラエル・ガルバン

Israel Galván

La Edad De Oro 黄金時代

10.13 14:00開演

フラメンコ界のニジンスキー
新境地を切り開く真正フラメンコ

1973年、スペインのセビージャ生まれ。早くから正統派舞踊手として頭角を現すが、20代半ばから発表を始めた前衛的な作品群で、才能を開花する。フラメンコ界のニジンスキーと評される。2011年スペイン舞台芸術のアカデミー賞ともいへべきプレミオ・マックス大優秀男性舞踊家賞を受賞。

「これがフラメンコ?」そう言わずにいられない驚き。

作品を発表するたびに類稀な独創性で伝統と常識の壁を打ち破ってきた、フラメンコ最大の異端児イスラエル・ガルバン。

一般のフラメンコのイメージを超えた、一見、奇異で時に滑稽ですらある動きは、しかし熱く、激しい情感の鼓動を打ち鳴らして、私たちをフラメンコの深淵へ導いていく。

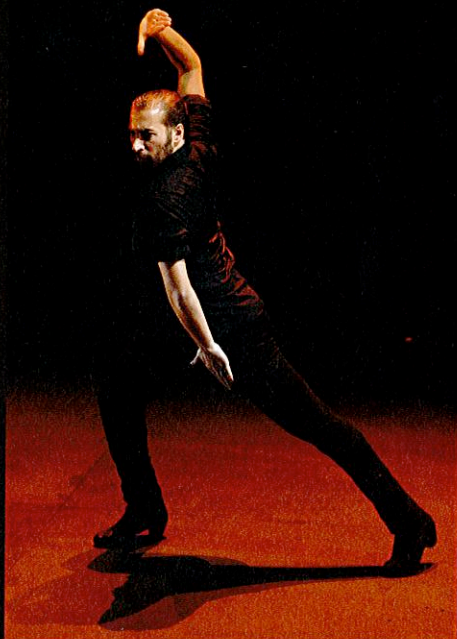
1973年セビージャ生まれ。父ホセ・ガルバン、母エウヘニア・デ・ロス・レジェス。共に舞踊家で、後に妹パストーラも踊り手となる。

21歳のときアンダルシア舞踊団でプロデビュー。翌年95年に「コルドバのコンクール」でビセンテ・エスケデロ賞、また96年に「ラ・ウニオン」のコンクール」とセビージャのビエナルの「若手コンクール」で優勝し、実力派バイラオールとして頭角を現す。98年独立し、処女作「ミラロス・サバトス・ロホス」で初めて現在のスタイルを披露。その後はこのスタイルで、作品を発表する毎にさらに大胆に、そして奥深くアルテを迫り進んでいく。

代表作はカフカの「ラ・メタモルフォシス」(00年)、闘牛をテーマにした「アレナ」(04年)、黙示録を踊った「エル・フィナル・デ・エスタ・エスタド・デ・コサス」(07年)など。最新作「ロ・リアル」(12年)では、ナチスドイツのロマ民族迫害という深刻なテーマに挑み注目を浴びた。

また、今回公演される「ラ・エダー・デ・オロ(黄金時代)」も2005年より上演される彼の代表作の一つ。カンテとギターだけのシンプルな音と共に、19世紀末から20世紀前半にかけての「フラメンコ黄金時代」が生み出した伝統のフラメンコを、彼独特の斬新なタッチで今に蘇らせる。伝統の中に未来を見る珠玉の名作だ。

フラメンコの姿をもたない真正フラメンコ。イスラエルの踊りは観る者を驚かし、刺激し、感性に訴えながら、私たちをまだ見ぬ未来に導いていく。



Israel Galván

イスラエル久々の来日、心待ちにしています。異色の天才として常に、誰も思いつきようもない新しい作品を手掛け、世界をアツと言わせているイスラエル。その彼が又、どんな斬新な思い付きを見せてくれるのでしょうか。ベレン・マジャは、親譲りの才能が開き、両親を越えようとしている今が楽しみ。

ロシオについては、私は何故か一度も見たことが無く、今度の公演を楽しみにしています。

エバ・ジェルバブエナ! 何も言う事の無い、完璧なアーティスト。コルドバ

ロシオ・モリーナ

Rocio Molina

Danzaora ダンサオーラ

10.14 14:00開演

天才的な音感、驚異的な身体能力
そして天性の踊り手としての感性
21世紀の女性のフラメンコを確立した
舞踊家

1984年、マラガ出身。現代フラメンコ若手ナンバーワン。伝統的なフラメンコから現代作品まで、奇抜な振り付けと高度なテクニックを駆使したステージは、高い評価を得る。2010年「スペイン舞踊家賞」を初め、多くの荣誉ある賞を受賞。

21世のフラメンコ舞踊はロシオ・モリーナ無しには語れない。

この10年の間に尋常を逸するスピードで「マラガが生んだ最高の踊り手」、「21世紀の女性のバイレを作ったバイラオーラ」に成長した彼女が、未だ20代とは驚きの一言である。1984年マラガに生まれ、17歳でマドリッド王立舞踊音楽学校を首席で卒業。

マリア・バハス舞踊団に入団するが03年19歳のときに独



Rocio Molina ©Muriel Mairet

フラメンコ・フェスティバルvol.2

2014年3月

エバ・ジェルバブエナ 詳細近日発表

【東京公演】

3.22

De la cava, Barro y Llanto

泥と涙

3.23

Lluvia 雨

新宿文化センター 大ホール

チケットスペース tel. 03 3234 9999

【兵庫公演】

3.26

De la cava, Barro y Llanto

泥と涙

兵庫県立芸術文化センター

KOBELCO大ホール

tel. 0798-68-0255

エバ・ジェルバブエナ

Eva Yerbabuena

魂の深淵が踊りへと昇華



Eva Yerbabuena

国家賞すら辞退する程の自信、それに伴う実力は世界の認める素晴らしさです。

特に彼女のTEATRO REALでのSIGUIRIYAには涙が出るほどの感動を憶えたこと、忘れられません。

この素晴らしいアーティスト達が一堂に会するフェスティバルは、決して見逃せません。今から心待ちにしています。

小松原庸子

スペイン舞踊家

立し、21歳で処女作「エンブレ・バレデス」(05)を発表する。

現在まで発表した7作品のうち、代表作はニーチェ作品をベースにした「エル・エテルノ・レトルノ」(06)、小劇場用の作品ながらも秀作と名高い「トルケサ・コモ・エル・リモン」(06)——この作品では舞台と客席の“壁”を取り払い、ユーモアあふれるパフォーマンスで会場を沸かせた——、そしてそれまでの集大成とも言える「オロ・ピエホ」(08)など。

「クアンド・ラス・ピエドラス・ブエレン」(10)では小さい木箱の中で足の左右前後を使ってサバテアードを打つ新しいテクニックを生み出した。

天才的な音感、驚異的な身体能力、そして天性の踊り手としての感性。その圧倒的なパフォーマンス力で2010年26歳にして「スペイン国家舞踊賞(演技部門)」受賞。フォルクローレやエスケウエラ・ボレーラ、コンテンポラリーもこなし、フラメンコでも、バタ・デ・コーラやマントンといった小物使いまで充実し、更に振付家としての才能も花開かせている。

その巨大な世界がぎゅっと凝縮されたのが今回の公演「ダンサオーラ」(11)だ。この作品を観れば、彼女の全てが一度に体験できると言っても過言ではない。ダンサオーラとはダンサーとバイラオーラ(フラメンコ舞踊家)を掛けた造語。そのタイトル通り、ロシオはここで、フラメンコであると同時に、それをを超えた舞踊家としての可能性を存分に探求する。また、この作品では初めて即興の部分を入れ、毎回、新しい事に挑戦するという。何が出てくるか、それは観てのお楽しみだ。

ロシオ・モリーナの可能性は、まったくもって計り知れない。

伝統と完璧な技術に裏付けされた情熱的な踊りで、若くして女性フラメンコ舞踊家としての地位を築いたエバ・ジェルバブエナは、1998年28歳で舞踊団を旗揚げし、2作目「5ムヘーレス5(2000年)」で、フラメンコ従来の動きに縛られない独特の感性に彩られた、新しい舞踊世界を生み出した。

「ラ・ボス・デル・シレンシオ(02)」、「ア・クアトロ・ボセス(04)」、「エル・ウソ・デ・ラ・メモリア(06)」と、作品度にその評価を上げ、「ジュビラ(09)」では格式の高いマドリッド・サルスエラ劇場の150周年のシーズン開幕を飾る。

2001年に国家賞であるプレミオ・ナシオナル・デ・ダンスを受賞。ドイツのコンテンポラリー舞踊家ヒナ・パウシュ舞踊団に客演ほか、マイク・フィグス監督映画「フラメンコ・ウーマン(97)」、「ホテル(01)」に出演するなど、世界を股にかけて活躍する、スペインを代表する舞踊家の一人である。目に映るものをそのまま映し出した写真ではなく、受けた心の動きを描く印象派の絵。それがエバ・ジェルバブエナのフラメンコだ。エバは怒り、悲しみ、喜びといった直接的な感情ではなく、愛、痛み、メランコリーといった、感性の風景を表現する。彼女自身の体験に基づいた、あまりに親密な世界。しかしその抽象的な“声”が、これほど心に響くのはなぜだろう。そこには痛みで満ちた沈黙がある。その中に、私たちは女性の、人間の、魂の奥深さをまざまざと見る。エバの体験は私たち自身の体験と重なり、心を突き立て、そしていつしか涙が頬を伝うのだ。

進化する現代フラメンコの様々な試みの中で、心の情景を描くエバ・ジェルバブエナの舞台は、ひととき大きな金字塔を打ちたてた。彼女は感性の目で、遠く未来を見つめている。